

2022年度（2022年7月～2023年6月）

# 環境経営レポート



2023年 8月 30日 作成

**小林機工株式会社**

# 目 次

① 組織の概要	2
② 対象範囲	2
③ 実施体制	3
④ 環境経営方針	4
1) 環境経営方針	4
2) 環境保全活動指針	4
⑤ 環境経営目標及び計画	5
⑥ 環境経営目標の取組結果	5
⑦ 環境経営目標と計画の実施評価	6
1) 社員への環境教育	6
2) 二酸化炭素排出量の削減	6
I 電力使用によるCO2排出量	6
II ガソリン・軽油消費によるCO2排出量	6
3) 廃棄物排出量の削減	7
4) 水道使用量の削減	7
5) 事務用品のグリーン購入	7
6) 省エネベルトの販売促進	7
⑧ その他の取組内容	8
⑨ 次年度の取組内容	8
⑩ 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価、 並びに違反、訴訟の有無	8
⑪ 環境経営レポートの公表	8
⑫ 代表者による全体評価と見直し・指示	8

## ① 組織の概要

### 1. 事業者名及び代表者名

小林機工株式会社

代表取締役 守屋 雅之

### 2. 所在地

本社 岡山県岡山市南区福成2丁目19番25号  
(敷地: 2125.31㎡ 床: 1546.07㎡)

水島営業所 岡山県倉敷市南畝7丁目5番12号  
(敷地: 1951.17㎡ 床: 814.91㎡)

揖屋倉庫 島根県松江市竹矢町1819  
(敷地: 519.01㎡ 床: 29.64㎡)

### 3. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 林 利明

担当者 児子 哲也

笹木 俊輔

(TEL) 086-263-1211

(FAX) 086-263-5269

### 4. 事業の内容

機械工具部品の卸売

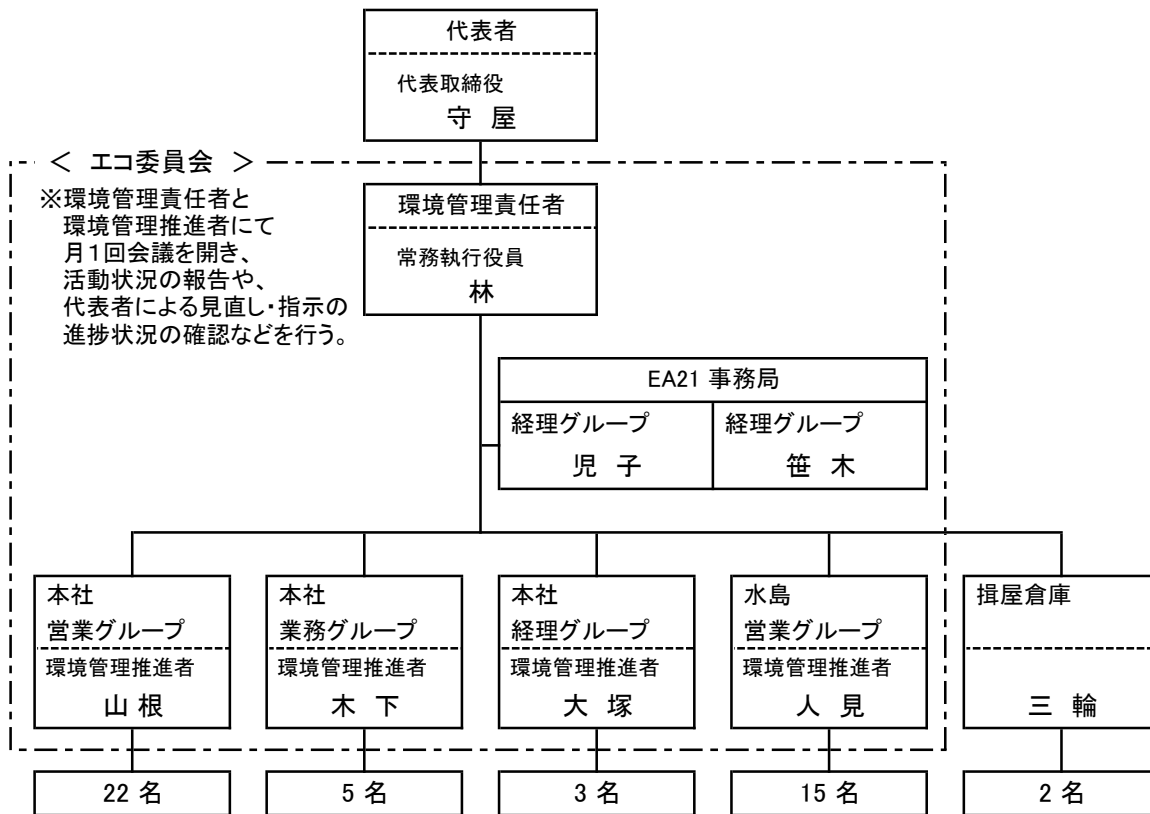
### 5. 事業の規模

	2020年度 (2020.7~2021.6)	2021年度 (2021.7~2022.6)	2022年度 (2022.7~2023.6)
売上高(千円)	3,596,976	3,758,469	4,121,871
社員数	48名	50名	51名
総建屋床面積(㎡)	2,391	2,391	2,391
総敷地面積(㎡)	4,595	4,595	4,595

## ② 対象範囲

小林機工株式会社 本社、水島営業所、揖屋倉庫の全事業所を対象範囲としている

### ③ 実施体制



役割・責任・権限	
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営に関する統括責任</li> <li>・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用を準備</li> <li>・環境管理責任者を任命</li> <li>・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書を承認</li> <li>・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施</li> <li>・環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>・環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書を確認</li> <li>・環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>・環境経営レポートの確認</li> </ul>
EA21事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理責任者の補佐</li> <li>・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>・環境活動の実績集計</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表の作成</li> <li>・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>・環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
各部門の環境管理推進者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自部門における環境経営方針の周知</li> <li>・自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>・自部門に関連する環境活動計画の推進及び実施</li> <li>・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## ④ 環境経営方針

### 1) 環境経営方針

当社は地球と地域の環境の保全が社会共通の重要課題であることを認識し、機械部品の販売を通じて、ユーザーの環境保全活動に役立つ製品の提案を行い、自社の企業活動においても環境ならび、温暖化対策・省エネに配慮した機器を導入するなど、より豊かな社会の発展に貢献します。

### 2) 環境保全活動指針

当社は、持続可能な循環型社会の形成・実現に向けて下記の取り組みを行い、年に一度その活動記録をまとめ、更なる改善に繋がるようチェックを行い、継続的な環境保全活動を推進します。

1. エコ商品の販売促進
  - (1) 仕入先メーカーの省エネ及び環境に配慮された商品を積極的に販売します
2. 環境関連法規の遵守
  - (1) 環境関連法規及び同意する協定等を遵守します
3. 環境コミュニケーションの推進
  - (1) 環境活動レポートを公表します
  - (2) 地域の苦情・要望に対応します
4. 環境負荷の低減及び環境保全の推進
  - (1) エネルギー消費に伴うCO2排出量の削減に取り組みます
  - (2) 廃棄物の排出量の削減や適性処理の推進に取り組みます
  - (3) 水の使用量削減に取り組みます
5. グリーン購入
  - (1) 事務用品等の購入時には優先的にエコマーク取得製品を発注します

この方針がすべての従業員に充分理解されるよう周知し、環境経営目標を設定してその達成の為に一人ひとりが環境に配慮した行動を定着させ、意識向上を目指します。

制定日：2007年 11月 1日

改定日：2020年 10月 22日

小林機工株式会社

代表取締役 守屋 雅之

## ⑤ 環境経営目標及び計画

環境目標項目	基準値 (基準年度)		年度毎目標・計画		
			2022年度	2023年度	2024年度
電力使用による 二酸化炭素の 排出量削減  部門責任者 営業グループ 山根	107,247 kg-CO2 (2021年度)  2021年度電力使用量 159,594 kWh 二酸化炭素調整後排出係数 0.672 kg-CO2/kWh	基準年度比	95%	95%	95%
		目標値	101,885kg-CO2	101,885kg-CO2	101,885kg-CO2
		是正処置 判断基準	目標値より +20%	目標値より +20%	目標値より +20%
		通年の 活動計画	空調温度の適正化 (冷房26℃ 暖房20℃) 不在事務所の消灯 うちのの使用	空調温度の適正化 (冷房26℃ 暖房20℃) 不在事務所の消灯 うちのの使用	空調温度の適正化 (冷房26℃ 暖房20℃) 不在事務所の消灯 うちのの使用
自動車燃料の 消費による 二酸化炭素の 排出量削減  部門責任者 営業グループ 山根	83,082 kg-CO2 (2013年度)  ガソリン使用量 32,062ℓ 軽油使用量 3,294ℓ	基準年度比	99%	99%	99%
		目標値	82,251kg-CO2	82,251kg-CO2	82,251kg-CO2
		是正処置 判断基準	目標値より +20%	目標値より +20%	目標値より +20%
		通年の 活動計画	効率的なルートでの配送 エリア別営業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止	効率的なルートでの配送 エリア別営業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止	効率的なルートでの配送 エリア別営業活動の見直し アイドリングストップ 急加速・急停車の防止
廃棄物排出量の 削減  部門責任者 業務グループ 木下	7,325kg (2013年度)	基準年度比	99%	99%	99%
		目標値	7,252kg	7,252kg	7,252kg
		是正処置 判断基準	目標値より +20%	目標値より +20%	目標値より +20%
		通年の 活動計画	古紙リサイクル 機密文書粉砕リサイクル ゴミの分別	古紙リサイクル 機密文書粉砕リサイクル ゴミの分別	古紙リサイクル 機密文書粉砕リサイクル ゴミの分別
水道使用量の 削減  部門責任者 業務グループ 木下	916m <sup>3</sup> (2013年度)	基準年度比	99%	99%	99%
		目標値	907m <sup>3</sup>	907m <sup>3</sup>	907m <sup>3</sup>
		是正処置 判断基準	目標値より +20%	目標値より +20%	目標値より +20%
		通年の 活動計画	洗車時の水量調整 植木用散水ホースの 蛇口閉め忘れ防止 節水の心掛け	洗車時の水量調整 植木用散水ホースの 蛇口閉め忘れ防止 節水の心掛け	洗車時の水量調整 植木用散水ホースの 蛇口閉め忘れ防止 節水の心掛け
事務用品の グリーン購入点数 比率アップ  部門責任者 経理グループ 大塚	比率 66% (2013年度)  比率 = $\frac{\text{エコ商品点数}}{\text{全購入点数}}$	基準年度比	100%	100%	100%
		目標値	66%	66%	66%
		是正処置 判断基準	目標値より -20%	目標値より -20%	目標値より -20%
		通年の 活動計画	事務用品カタログから エコ商品を優先的に購入	事務用品カタログから エコ商品を優先的に購入	事務用品カタログから エコ商品を優先的に購入
省エネベルトの 販売促進  部門責任者 経理グループ 笹木	4,176万円 (2013年度)  省エネVベルト 省エネパワーエース HFDシステム	基準年度比	101%	101%	101%
		目標値	4,220 千円	4,220 千円	4,220 千円
		是正処置 判断基準	目標値より -20%	目標値より -20%	目標値より -20%
		通年の 活動計画	日常の営業活動において カタログ・パンフレットを用いて 積極的に商品PRを行う	日常の営業活動において カタログ・パンフレットを用いて 積極的に商品PRを行う	日常の営業活動において カタログ・パンフレットを用いて 積極的に商品PRを行う

## ⑥ 環境経営目標の取組結果

2022年度CO2総排出量: 179,704kg-CO2

※2022年度・・・2022年7月～2023年6月

項 目 (単位)	2022年度		
	目標値	実績値	評価
①電力CO2排出量 (kg-CO2)	101,885	114,090	○
②ガソリン・軽油CO2排出量 (kg-CO2)	82,251	65,010	◎
③廃棄物排出量 (kg)	7,252	8,045	○
④水道使用量 (m <sup>3</sup> )	907	789	◎
⑤事務用品グリーン購入比率アップ (%)	66	46	×
⑥省エネベルトの販売促進 (千円)	4,500	3,404	△

評価基準 ◎:目標達成 ○:目標は達成していないが昨年度より改善 △:基準年を下回っているが是正処置判断基準は下回っていない

## ⑦ 環境経営目標と計画の実施評価

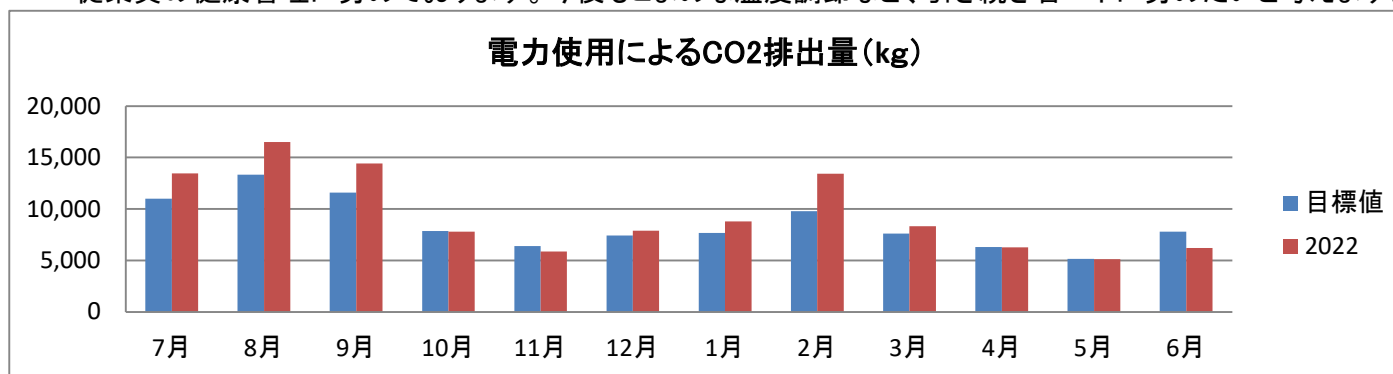
### 1) 社員への環境教育

環境関連セミナーを開催し、当社が取り組んでいる環境保全活動について報告し社員の環境に対する意識向上を図りました。

### 2) 二酸化炭素排出量の削減

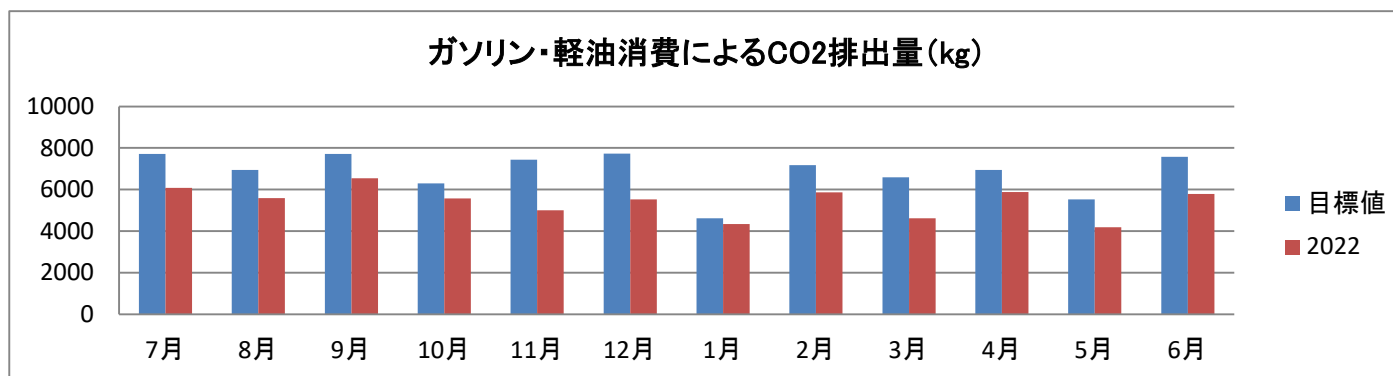
#### I 電力使用によるCO2排出量

全体的に目標値をオーバーする結果となりました、特に夏場に関しては大幅に増加していますが、これは倉庫にエアコンを導入したことによるもので、昨今の猛暑による熱中症予防など従業員の健康管理に努めております。今後もこまめな温度調節など、引き続き省エネに努めたいと考えます。



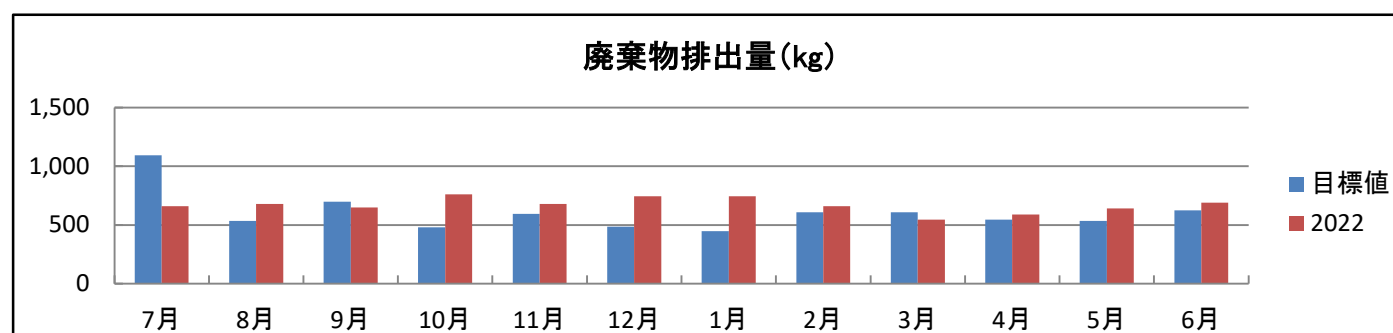
#### II ガソリン・軽油消費によるCO2排出量

ガソリン・軽油使用量に関してはかなり減少傾向にあります。これは社有車のハイブリットカー等への買い替えが進んだ為と考えられます。今後も営業・配送ルート効率化など、CO2排出量の削減に努めていきたいと考えます。



### 3) 廃棄物排出量の削減

廃棄物排出量に関しては毎年増加傾向にありますが、これは営業活動の拡大に伴うものであり、今後は梱包資材の再利用やごみの分別によるリサイクルの徹底など社内全体で廃棄物排出量の削減に積極的に取り組んでいきたいと考えます。



## ゴミの収集・分別場

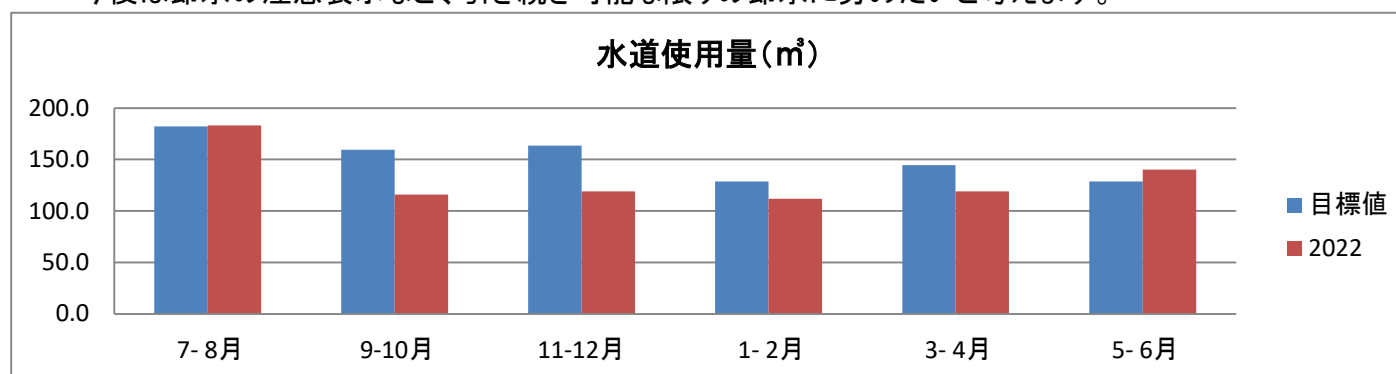


### 4) 水道使用量の削減

水道の使用量に関しては、以前に比べて少し減少傾向にあります。

夏場の散水時間の見直しや、トイレの改修工事などが使用量の減少に繋がっていると考えます。

今後は節水の注意表示など、引き続き可能な限りの節水に努めたいと考えます。



### 5) 事務用品のグリーン購入

事務用品の購入においてはグリーン購入法適合商品やエコマーク取得製品などを積極的にとりいれ、会社全体として意識できていると考えます。

今後は事務用品の購入金額の削減にも努めつつ、環境に配慮された製品の使用を徹底したいと考えます。

### 6) 省エネベルトの販売促進

近年、本業の機械部品の販売において、省エネなど環境に配慮された製品の導入や環境負荷物質の排除への関心は非常に高く、各メーカーと連携して最適な製品のPRを行い、ユーザーの要望に応えていきたいと考えます。



## ⑧ その他の取組内容

太陽光パネルを本社倉庫屋根に設置して10年目になりました。  
年間を通じて安定した発電量が得られています。

2022年度 発電量実績値 : 62,220 kWh

※発電分は自社消費ではなく契約電力会社へ売電



## ⑨ 次年度の取組内容

次年度も引き続き、エアコン設定温度の調整やこまめな消灯などによる電力使用量の削減、ガソリン・軽油使用量削減の為に営業・配送ルート効率化や、将来的な次世代燃料自動車の検討、水道使用量削減の為に蛇口閉め忘れの確認や節水表示による意識向上、ごみの分別リサイクルの徹底など廃棄物の排出削減に取り組めます。

また、エコ関連商品の販売促進及び、社内設備への環境に配慮された製品の採用など、環境保全活動の推進と業務効率向上の両立に取り組めます。

## ⑩ 環境関連法規の遵守状況の確認及び評価、並びに違反、訴訟の有無

当社に関係する環境関連法規は次の通りです

法規制等の名称	該当する設備・項目	確認・評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物	○
プラスチック資源循環促進法	プラスチック使用製品産業廃棄物	○
消防法	事業所建物および設備	○
フロン排出抑制法	業務用空調機	○
家電リサイクル法	事業所備品(テレビ・冷蔵庫・洗濯機)	○
自動車リサイクル法	社有車	○

なお、関連法規制の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、関係当局からの指摘、及び地域住民からのクレームや訴訟もありませんでした。

## ⑪ 環境経営レポートの公表

環境経営レポートは外部からの要求に応じて、いつでも閲覧できるよう事務所に備えます。  
併せて、自社ホームページへも掲載しています。

## ⑫ 代表者による全体の評価と見直し・指示

新型コロナウイルス感染拡大の収束に伴い、急速に変化する世の中の状況に柔軟に対応し、自然災害や電力需給の逼迫と世界的なエネルギー資源の高騰など、環境に関するさまざまな問題の解決に自社で出来得る限りの努力をもって取り組んでいきたいと考えます。

また、SDGsの観点からも従業員の健康増進や働き甲斐や生産性の向上および限りある資源を有効に生かして持続可能な環境保全活動を推進していかなければならないと感じております。

以上